

# ■福祉心理学科 平成 28 年度開講科目 カリキュラムマップ

## 福祉心理学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

福祉心理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 人間理解力
  - ① 基礎的知識：心理学の基礎的知識を用いて、人の思考・感情・行動の原理や法則、理論について説明できる。
  - ② 専門的知識：心理学の専門的知識を用いて、自己を含むさまざまな人の思考・感情・行動について、その意味とその理由、自分や社会、生活との関連について説明できる。
  - ③ 応用的知識：心理学の応用的知識を用いて、さまざまな人が抱えている心理的・社会的問題とその支援や援助について説明できる。
2. 自他尊重的・共感的コミュニケーション力
  - ④ コミュニケーション力：コミュニケーション・感情・人間関係・社会的スキルに関する心理学の知識と技能を活用して、他人の話をよく聞き、共感的に傾聴し、自分とは異なる意見を持つ人とも互いに尊重しながらコミュニケーションをとることができる。
3. 他者配慮表現力
  - ⑤ レポート作成力：表やグラフを活用して心と行動に関するレポートを他者にわかるように作成することができる。
  - ⑥ ICT 活用力：情報コミュニケーション技術(ICT)を用いて心と行動に関する情報収集・分析・プレゼンテーションを適切に行うことができる。
4. 問題解決力
  - ⑦ 論理的思考力、クリティカルシンキング力：認知・学習・思考に関する心理学の知識と技能を活用して、多角的な視点から論理的に分析できる。
  - ⑧ 問題解決力：個人・個人間の関係・集団における問題を発見し、その問題の解決・調整に必要な情報の収集・分析・整理し、その問題を解決・調整できる。
5. 自己コントロール力
  - ⑨ 自己管理能力：自己理解・セルフコントロールに関する心理学の知識と技能を踏まえて自らを律して行動できる。
6. 対人調整力
  - ⑩ チームワーク、リーダーシップ：チームワーク・リーダーシップに関する心理学の知識と技能を踏まえて、他者に配慮しながら、目標と問題を共有し、協調・協同して行動できる。
7. 社会貢献力
  - ⑪ 倫理観：倫理・道徳に関する心理学の知識と技能を踏まえて、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できる。
  - ⑫ 市民としての社会的責任：社会化・向社会的行動・社会貢献に関する心理学の知識と技能を踏まえて、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に社会に関与できる。
  - ⑬ 創造的思考力：心理学の知識・技能・態度を統合的に活用し、自ら課題を設定し、実験・調査などを行い、分析・整理して独自の解決法・解決案を導き、社会に貢献できる。

学士力では、①～③が知識・理解、④～⑧が汎用的技能、⑨～⑫が態度・志向性、⑬が統合的な学習経験と創造的思考力にあたります。

### ●共通基礎科目

科目コード	科目名称 (旧カリ=旧カリキュラム 受講者用科目)	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要, ○重要, △望ましい)															
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬			
AA1001	禅のこころ	禅といえばあなたは何を連想するでしょうか。たいていの人は、薄暗い禅堂で足を組んで、目を半分閉じてじっと座っている僧を連想するでしょう。また、実際に座禅を体験したことのある人は、足のしびれや、じっとしていることのつらさとともに、静寂な時間の新鮮な経験や終わったときの爽快感などを思い出すでしょう。私たちはまた、禅がさまざまな文化現象にかかわっていることも知っています。禅僧の書いた文章、書、墨絵に高名なものが数多くあります。茶の湯や能などの伝統芸能、剣道などの武芸にも禅の精神は生きています。つまり、禅は心を静め、精神を統一し、自らの感性を高めるなかで美意識や自己探求と深くかかわってきました。さらに、禅はストレスの多い生活のなかで不安や悩みを抱える人、あるいはもっと深く、人生の根本問題と向き合っている人、それらの人にとって問題解決のための手段のひとつともなってきました。以上、禅に関することをいくつかあげてみました。この科目では、通信教育という制約があるため、禅がどのような思想か、また歴史的にはどのように発展してきたのについて理解することを目的とします。しかし理解といっても、歴史、人物、思想内容という事柄の理解だけを求めているわけではありません。禅とかわるなかで、自分とはなにか、生きるとはなにか、人生とはなにかという問題意識をもってもらいたいと思います。	1) 禅の歴史と思想について簡潔に説明できる。 2) 日本文化と禅の関係について簡潔に説明できる。 3) 道元の思想の特徴を簡潔に説明できる。 4) 各自で坐禅を体験してみる。					◎		◎	○	◎		○					△
AB1002	ボランティア論	ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今のようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。	1) ボランティア活動の定義について説明できる。 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。	○		◎	△	◎		○	◎	○	△	○	○	○	◎		
AB1020	科学的な見方・考え方	現代の生活において、メディアでは数多くの情報が瞬時に飛び交い、欲すれば余りあるほどの情報が容易に手にできるようになりました。しかし、自分では十分に理解していると感じている情報をいざ誰かに説明しようとしてみると、意外とうやむやな理解であったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきな論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられ、指摘されると気付く場合も多いようです。特に通信教育のように「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった（書きたかった）」「そういう意味も含めて書いた」と思って書いていても、実際に文字になって表れていなければ読み手側には全く伝わりません。またどんなに素晴らしい意見やもっともらしい結論であっても、そこに至る道筋（説明）が納得のできる展開になっていなければ、単なるアイデアやひらめきと言われても仕方のないことです。池内氏は『科学的な考え方・学び方』の中で、いわゆる理系分野である自然科学では科学の構造を「自然現象」―「物質の運動」―「法則」というつながりと考えることができると説明しています。さらに、深く考察すれば人間や社会の動きにも一定の法則性が認められ、どのような原理のもとに、どのような行動（運動）をとったか、それはどのような結果（現象）になったかというつながりの中で理解できると述べています。ここにも「現象」―「運動」―「原理」という構造があるというわけです。大学では後者を人文科学と呼んでいます。他にも、社会を人間と対比した形とみなしてひとつの研究対象とする社会科学や、人間研究のうち特に人間行動にかかわる分野を行動科学とする分類などがあります。つまり学問として考えるということは、科学的に考えることを意味します。その考える過程では、突如としてアイデアやひらめきが生まれたり、時には飛躍があったり堂々巡りがあったりするかもしれません。しかし科学的に考えたことを示すということは、結論までの道筋（説明）で生じている隙間を丹念に補い、誰にでも納得できるように簡潔な表現で全体を再構成することで、論理的に説明できることが要求されます。論理的に説明するひとつの方法として、資料（図または表）の利用があげられます。文章だけで進めるよりも、資料を提示しその分析結果を述べることで、わかりやすくより説得力が増す内容に仕上げるすることができます。本科目では自身の考えを論理的に組み立て、資料を利用して表現する力を養う一助となることを目指します。	1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。 2) 聞かれていることに的確に答えることができる。 3) 資料で示されている内容を、正確に読み取ることができる。 4) 先入観や一般論を混在させずに、事実のみを根拠とすることができる。 5) 飛躍がないように論理を組み立て、他者を納得させることができる。 6) 科学的根拠により納得できたか否かを明確に判断できる。	○		△	◎	○	○	◎								◎	
AB1145 (DA2145)	基礎演習	本科目では、人間や社会に関する様々な諸問題から自由にテーマを設定し、グループ毎に話し合い、議論された内容について資料を作成し、最後にグループ発表を行っていただきます。一方的な講義形式ではなく、学生が主体的に参加する演習形式です。受講生の自由な視点からの、活発な議論を期待します。またグループ学習を通じ、普段の学習方法についての情報交換や学習仲間を作る機会にもしてください。	1) 一つのテーマや話題について討議し、他者の意見を傾聴しながら、新たな気づきを得、またそれらを自身の中で再構築し表現することができる。 2) レジュメの作成を通じてレポート学習の手順を理解し、要点を押さえたレポートを書くことができる。 3) 学友の輪を広げることができる。	○		◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	△	◎		
AB1332	情報処理 I	かつて、情報処理技術は、一部の専門家のみが扱う技術でした。しかし、近年では、電子メールによる意思疎通、ブログによる情報発信、さらには、SNS (Social Networking Service) を介する擬似社会の創出等、一般の人々にまで情報技術の利用が浸透してきました。一方、職業人における情報処理技術は、ワープロ・表計算といったソフトの操作、ネットワークとデータベースを利用した種々の情報管理・分析・活用と、専門性が特化されてきています。このような状況の下で、基本的な情報処理技術（統計処理等）を身につけておくことは必須のものとなっています。本科目では「情報機器の操作」として、Microsoft 社の Windows と Office の基本的な操作を習熟することを目的としています。	本科目の到達目標は、「データを自分で分析し、その内容を発信できるようになる」ことです。この目標を達成するため、 1) 文書作成技術の習得を目的とした Word の基本的な操作法の課題 2) 数的データ分析技術の習得を目的とした Excel の基本的な操作法の課題 をレポート課題として設定しています。そして、修了には、現実の統計データを与え、各々でそれを数値分析・図表化し、論理的な結論を導く課題を課しています。				◎	◎	○										

AH1003	福祉と経済	現代の福祉は経済システムの重要な一分野である。国民経済の稼ぎによって、社会保障や福祉の充実をはかるのみではなく、福祉の充実には経済成長の効果がある。そこで、ここでは①まず経済学とはどのような科学であるのか。経済学の考え方について学習してみよう。②国民の幸福度を高めるための政府の役割について学習してみよう。③国民所得水準は我々の生活そのものである。国民所得がどのようなプロセスで決定されるのか。④国民生活の安定をめざして総需要の大きさをコントロールする政策がとられる。それは具体的にどのような中味であるか。以上の点について学習してみよう。経済学は数字や式、図が多くてむずかしいイメージがあるかもしれませんが。少しの知識を身につけておくだけで、物の見方・考え方が変わってきます。視野も広まることでしよう。受講者はなるべくスクーリングにも参加ください。なおいっそう、福祉と経済のかかわりが理解できるようになることでしよう。楽しく学習できること、また学習の結果、社会の動きがわかり、楽しさが増えることを願っています。	1) 福祉と経済がどのように関わっているか、自分の考えを整理し、説明できる。 2) 社会保障が行われる根拠として、「分配問題としての市場の失敗」がある。これについて、解説できる。 3) 国民所得の決定プロセスについて、すなわち、総供給＝総需要、貯蓄＝投資で決まるプロセスについて、説明できる。 4) 有効需要の原理をふまえて、総需要管理政策について説明できる。とくに、アベノミクスとはどういう政策なのかについて説明できる。 5) 「混合経済体制、応能負担、応益負担、現物給付、現金給付」について説明できる。	◎ ◎ ○ ◎ ○ △	△ △ △
AH1007	法の基礎(日本国憲法を含む)	福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ確かな判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。本科目では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得することと並行し、社会福祉サービスの対象の属性別(児童、高齢者、障害者など)にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得し、ひとりひとりの幸せづくりに貢献できる社会福祉の人材の養成を目的とします。	1) 日本国憲法の制度趣旨について説明することができる。 2) 成年後見制度について解説できる。 3) 民法の全体像について説明することができる。 4) 法の解釈について説明することができる。 5) 判例をあげて、基本的人権を説明することができる。	△ ○ ◎ ◎ ◎ ○ ○	○ ○ ○
AH1017	人間と教育	今日の教育をめぐる課題は、どれ一つをとってみても、わたしたちひとりひとりの生き方を問い、未来の社会を決定づける問題です。学ぶ、知る、考える、成長するとはどういうことなのか。その営為に教育はどうかかわっているのか。暴力やいじめ、非行はなぜなくならないのか。不登校や学校崩壊はなぜ起こるのか。グローバル化、IT化、知識基盤社会の到来は、教育のあり方やわたしたちたちの生活や成長にどのような影響を及ぼしているのか。教育の改革は、どのように行われようとしているのか。教育を問うということは、何をどのように問うことなのか。まず、教育は、歴史・社会・文化のすべての全体的な関連のなかで営まれる活動です。それゆえに、わたしたちは、教育あるいは人間とは何か、ということについて改めて問い直さなければなりません。なぜ、人間にとって教育が必要なのか、人間にとって教育とは何か、に答えなければなりません。その問いに対する解答は、教育の実践を根本において強く支えてくれるでしょう。	1) 教育についての関心を深め、今後の学びのための基礎知識を説明することができる。 2) 教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について説明できる。 3) 生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について論じることができる。	○ ○ △ ◎ △ ○ ○ △	△ ○
AH1026	政治学の基礎	本科目では、私たちが日々の生活を送るうえで、必ずと言っていいほど向き合っている政治(Politics)を理解するために、政治学(Political Science)を基礎から学びます。政治学は、例えば、少子高齢化や東日本大震災からの復興といった諸問題に対して、現在、国がどのような政策を採用しているのか、そして、その政策がどのように立案・決定されているのか、という点を論理的かつ実証的に説明します。本科目は、その第一歩として、政治制度、民主主義の理論、政党制、政治史、政策過程などの基本事項を学びます。また、流動的な国際社会の動向を的確に把握するため、国際政治学もあわせて学び、外交・安全保障政策に対する理解を深めます。	・近現代における国家の役割の変容について、「夜警国家」及び「福祉国家」という言葉を用いて簡潔に説明することができる。 ・市民革命を経て成立した近代国家の基本理念について、「立憲主義」、「国民主権」及び「権力分立」という言葉を用いて説明することができる。 ・西洋における自由主義思想の発達について、「自然権」及び「社会契約説」という言葉を用いて説明することができる。 ・日本の議院内閣制とアメリカの大統領制について、それぞれの政治制度の特徴を簡潔に説明することができる。 ・政策過程について、政策ステージとアクターの関係に言及しながら、簡潔に説明することができる。	◎ ◎ ○ ◎ △ △ ○ △	○ ○ ○
AH1049	人権と福祉	人権や福祉という言葉(用語)は、比較的世の中で語られ、聞かされ、その大切さは、多くの人々が認めることです。特に福祉系学部・学科では、人権は重要なキーワードであり、社会福祉実践の根源には、「人権」があり、人権の具体的な形態の一つに《福祉》があるといえましょう。そこで、このスクーリングでは、「人権と福祉」という枠組みで、社会福祉学を学ぶ方々社会福祉専門職を目指すか否かを一切問わず、社会福祉の本質を考究する入口・手掛かりとして、人権と福祉の諸課題(要介護・“しょうがい”・貧困)とを関連しながら講義します。また併せて、それへの感想等について、受講者がゆっくりと考え、話し合える場となればと考えております。	1) 人権と福祉の基本的事項について説明できる。 2) 社会福祉実践と社会福祉学研究的の根源的課題の基本的枠組みが説明できる。 3) 社会福祉学をより深く学びたいと思う。	◎ ◎ ◎ ○ ○ ◎ ◎	◎ ○ ○
AH1050 (DA2050)	社会福祉学入門 (社会福祉の基礎)	社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて理解する。現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について理解する。社会福祉の専門性について、価値、知識、技術の枠組みに沿って理解する。	1) 広義、狭義の社会福祉の概念が説明できる。 2) 現代社会における社会福祉制度の役割とその概要を説明できる。 3) ソーシャルワーク(狭義の社会福祉の実践)の枠組みが説明できる。 4) ソーシャルワークの過程、技術、実践をイメージし、具体的に説明できる。	◎ ○ ○ ◎ ○ ○	△ △ ◎
AK1005	生命の科学	生物、とくに人の生命を理解するという事は、とても複雑で難しいことであると考えられがちでした。しかし、生命に関する研究が進むにつれ、思っていたよりもはるかに単純な現象の積み重ねによって、生命体が構成されていることがわかってきました。生命の科学では、ヒトを中心に、その生命活動を支える仕組みについて、一つ一つが単純な仕組みの積み重ねによって成り立っていることを確認しながら、生命の全体像に迫るように意識して学んでいきます。これらの学習を重ねることによって、どのような仕組みが生命活動を支えているのか、生きているということはどういうことなのかについて考える姿勢を身につけていきたいと考えています。	1) 生命維持を支える基本的なシステムについて分かりやすく説明できる。 2) 身体運動の基本的なシステムについて分かりやすく説明できる。 3) 脳の働きについて分かりやすく説明できる。 4) 専門職として将来かかわる人々の健康を考えるための基本的な知識について分かりやすく説明できる。	○ ○ ◎ ○ △	
AK1016	健康科学	健康・保健・医療・福祉の分野を専門的に習得するにあたっては、私たちのライフスタイルの変化と健康への認識について洞察を深める必要があります。本科目ではまず、「加齢」についての理解を深めつつ、前半で、健康と結びつきが深い栄養と運動について学習します。その上で後半では、健康であるために必要とされる、さまざまな実践や運動行政施策を通して身体・運動・文化に関する基本的認識を養い、日常における健康への意識や健康活動における必要性の理論修得を目的とします。	・健康を目指すうえでの栄養と運動の必要性について述べるることができる。 ・日常生活と運動習慣の関係性について説明できる。 ・運動やスポーツ実践にともなう効果や弊害について解説できる。 ・地域における事例や社会的変遷を加えながら「健康観」について述べるることができる。 ・地域や社会における健康行政施策について、事例を用いて説明できる。 ・国民のライフスタイルの変化にともなう健康増進対策等について解説できる。	○ ○ △ ◎ ○	
AL1011	コミュニケーション英語	英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とします。特にリスニングとスピーキングに重点を置きますが、語学力向上に不可欠であるリーディングと単語学習や、意見や経験などを表現する簡単なライティングも行います。教材はオンライン版教材もしくは冊子版教材を使用します。オンライン版教材は動画を用いた「Touchstone」(Cambridge University Press) オンライン学習ですので、実践的で興味深い内容となっており、使用方法も平易です。各自が設定した目標に向けて、自らのペースで何度でも繰り返し学習ができます。メールを通じて担当教員と頻繁にコミュニケーションを行います。冊子版教材ではだいたい同じ内容の学習をすることができますが、動画、ゲーム、インタラクティブラーニングアクティビティなどはありません。スクーリングでは、多彩な英語アクティビティ(コミュニケーション、リスニング、リーディング)をします。	自宅でのレポート学習をもとに、スクーリング講義でほかの学生と一緒に学ぶことにより、実際に役立つコミュニケーション力を身につけ、実践することができる。	◎ ◎ △ ○	
AS1023	スポーツ(バレーボール)	スポーツは私たちの健康や体力作りはもとより、生きがいや仲間作りにも大きな役割を果たすものです。本科目では、スクーリングによる実技講習において基礎体力の養成やバレーボールの基本技術やルールの習得を目指します。また、2人組での練習やチーム練習などを通して、協力する精神を学びます。バレーボールの中でもっともポピュラーな「6人制バレーボール」以外にも、生涯スポーツとして人気の高い「ソフトバレーボール」も体験してみましょう。	1) ソフトバレーボールの基本技術を実践することができる。 2) ソフトバレーと6人制バレーのルールの違いを論じることができる。 3) 受講者の年齢や技術レベルに合わせたルールを考案することができる。 4) スポーツの持つ力について論じることができる。 5) 互いを配慮しながら協力的に行動することができる。	◎ ○ ○	
AT1027	特講(子どもの貧困)	日本では子どもの6人に1人が貧困状態にあり、子どもの貧困の問題が社会的にも大きな関心をもたれるようになってきている。子どもの貧困はたんに経済的な乏しさ、物質的な不足のみならず、多くの子どもたちは親の離婚や失業、疾病などいくつもの逆境状況におかれている。こうした多重逆境の子どもたちの現実を、児童養護施設の入所児童の現状と課題を理解し、多重逆境の子どもたちの福祉臨床的支援のニーズと目的を学びます。	1) 多重逆境の視点を通して子どもの貧困の現状を理解し、それをふまえて児童養護施設などの社会的養護の子どもたちの背景と課題を理解することにより、福祉臨床的な支援の必要性と目的を学ぶ。 2) 多重逆境が子どもの心理や発達に及ぼす影響と具体的事例を学び、支援の実際や支援者の機能や役割について理解する。 3) 多重逆境の子どもたちの自立のための課題について考えることにより、子どもが貧困や多重逆境から脱却可能にするための支援や社会のあり方について学ぶ。	○ ◎ ◎ ◎ ○ ○	○ ◎ ○

●専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目 A 群

CC2103	福祉心理学	現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。	1) 一人一人の幸せ追求とQOL(生活の質)の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。	◎ ○ ○ △ ◎ ○ ○ ◎ ○ △ ○
--------	-------	---	---	-----------------------

FA2501	心理学概論	生命体が目指すのは「生きる」ことです。ところが「うまく」生きるために、進化の過程で「心」という働きができ、心の働きはしだいに精巧になり、もの世界とは別に心の世界をつくりました。その心の働きと、心の内容についてのまとまった知識が心理学です。心理学の概要を、まず心理学の問題史と研究方法の特徴を通して学び、そのあと、心は発達のどのようになされるのか、人が環境についての情報を入手するための心の働き、欲求や願望の充足を求めるときの心の動き方、経験を蓄積し利用する心の仕組み、困難な場面に直面したときの心の動き方と心の使い方、一人ひとりの心の働きの個性的特徴とその捉え方などについて学んでほしいと思います。心の「働き」とは、たとえば「見る」「考える」などで、心の「内容」とは、その結果できあがったイメージや知識などのことです。	心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FB2505	心理学実験Ⅰ	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを目ざして行うという手法があり、これを実験法と呼んでいます。不測の要因が介入しないように条件を統制するところに実験法の特徴がありますが、心理学実験Ⅰ・Ⅱでは、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。	◎	◎	◎	○	◎	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FB2506	心理学実験Ⅱ	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを目ざして行うという手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、心理学実験Ⅰ・Ⅱでは、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマにのっとった意味づけ（考察）をすることができる。 3) 研究記述のフォーマットにのっとり、レポートを作成することができる。	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FB3508	心理学研究法Ⅰ	この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「心理学実験Ⅱ」として科目が設定されているので、ここでは、実験法以外の方法について取り上げることにします。また、「検査法」については、「研究法Ⅱ」のスクーリングにおいて解説する予定になっています。心理学は、実証的学問です。実証的というのは、データを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つこととなります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標とします。なお、この科目では平成19年度よりスクーリングを開設しました。このスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。	1) 心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。 2) 独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。 3) 心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。 4) 「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画を立てることができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FB3509	心理学研究法Ⅱ	この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。「心理学研究法Ⅱ」のスクーリング（2単位6コマ）では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。具体的には、1日目の最初の2コマで検査法全般に関する講義を行い、3コマめに心理統計の基礎に関する講義を行います。さらに、2日目には、 <sup>2</sup> 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトをデータ例にもとづいて操作することも行っていただきます。講義内容の概要は以下のとおりです。 ①検査法について（担当 木村 進ほか） ②心理検査法とは 検査法実施上の留意点 ③知能検査（ウェクスラー系・ビネー系）の概要と留意点 ④発達検査の概要と留意点 ⑤性格検査（Y-G性格検査など質問紙法、ロールシャッハテスト・TATなど投影〔映〕法、作業検査法）の概要と留意点 ⑥心理統計とデータ分析について（担当 白井秀明ほか） ⑦心理統計学の基礎についての講義（仮説演繹法、実験的研究と相関的研究、心理統計がなぜ必要か、サンプリングと剰余変数の統制、統計的仮説検定の流れなど） ⑧統計処理（有意差検定、相関分析等）についての講義（解説）と演習	1) 知能検査・発達検査・性格検査の概要と留意点を説明できる。 2) 手順ののっとり統計的仮説検定の一連の流れを自ら実施することができる。 3) 心理学研究及び研究法を用いる際の倫理を理解し、これからの学修に生かすことができる。	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FC2514	社会心理学	社会心理学は「人間がその場の状況や他の人々（社会）とのかかわりの中で、どのように影響を受けて行動するか」という視点から人間を研究している学問です。研究テーマは、「人の第一印象はどうやって決まるのだろうか?」「意見の合わない友人を説得するにはどうしたらいいだろうか?」「彼はなぜあんなに攻撃的にふるまっているのだろうか?」といった、身近な疑問や発想から生まれています。その意味では、「答えは自分の中にもある」と考える人も多いかと思いますが、しかしながら、社会心理学を学び、興味深い数々の実験結果を知ると、「自分の考え」が必ずしも「科学的に証明された事実」と一致しないことに驚くことでしょう。社会心理学は、非常に親しみやすい分野でありながらも、自分たちの身のまわりに起こる出来事や自分たちの考え方や行動について、「常識」とは違った観点から見直すきっかけを与えてくれます。	1) 自己や他者の行動、集団行動における社会的・心理学的な法則性、規則性を理解し説明できる。 2) 社会的な事象の因果関係について客観的に説明できる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FC2515	家族心理学	家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について学び、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について学んでいきます。	1) システムとしての家族を説明することができる 2) 家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる 3) 家族を対象とする心理臨床と、個人を対象とする心理臨床の違いについて説明することができる	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FC2689	人間関係論	この講義を通して、人間関係の端緒、深化、崩壊に関する要因と理論を、自分で説明できるようになるとよいと思います。また、人間関係を悪化させてしまう誰しもが有する認知的なゆがみについてを理解し、この観点から、自分の人間関係を分析できるようになっていただきたいと思います。	1) 人間関係の維持や崩壊に関する理論をあげ、それぞれについて違いに留意しながら説明することができる。 2) 他者からの拒絶について、拒絶されても反社会的にならずにすむメカニズムを説明することができる。 3) 人間関係にかかわる様々な認知バイアスをあげ、それらを説明することができる。 4) 人間関係に関する諸理論やそれらにかかわる要因を理解し、それらを用いて現実の人間関係を分析し、問題を解決できる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FC3504	環境心理学	「環境心理学」は「心理学」の研究分野の一つです。「心理学」の大きな目的の一つは人間理解にあるのですが、「環境心理学」はとくに、ヒトと環境とのさまざまなかかわりのあり方を通して人間を理解するといってもよいでしょう。よく“人は人によって人となる”などといわれますが、これは人と人的環境、もっと大きくとらえれば人と社会的環境とのかかわりについて述べたものです。また私たちは、毎日の生活を快適にするために、部屋のインテリア、採光、温度などに配慮します。これは物理的環境に手を加えていることとなります。街の景観や都市計画、産業地帯の整備などは、はるかに規模の大きいものになるわけですが、それによって私たちは快適感や満足感を味わうことができる一方で、目的や方法が身勝手、環境への配慮の足りないものであれば、環境を汚染し取り返しのつかない破壊を地球に残してしまうことにもなります。この科目では、人間の成長発達に及ぼす環境の影響や、快適環境作りなど、基礎と応用の両面にわたって勉強しながら、一方で破壊、他方で保全といった、相反する行動を行う人間の心の世界も考えてみたいと思います。	1) 環境心理学の代表的な研究について内容を説明できる。 2) 環境心理学の応用的な研究について内容を説明できる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



FD2502	生涯発達心理学	発達を、人の一生における変化として捉える考え方は比較的新しいものですが、この科目においては、「生涯発達」という視点から発達について基本的に理解することを目指しています。発達ということを実験的に捉えるのは、さほど難しくありませんが、ここでは、その基本にある発達理論の理解を土台として、「発達は積み重ねである」ということの意味を具体的に理解することが目標です。たとえば、一人の老人を理解しようとする時に、その人の現在を理解するだけでなく、その人がこれまでどう生きてきたかということを理解しなければ十分とはいえません。逆に言えば、子どもから老人まで生涯を見通すことなのです。	1) 「生涯発達」の意味を理解し、自分の発達の経過を具体的に振り返ることができる。 2) 「発達」は上昇的变化と下降的变化として説明されることを理解し、自分が経験してきた変化について具体的にとらえることができる。 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、あるいは育児において、具体的な働きかけのあり方について考えることができる。 4) 発達のそれぞれの段階における特徴を理解し、自分および自分の周りにいる人々の具体的な姿に結びつけて説明することができる。 5) 「発達は積み重ねである」ということについて、「発達課題」という視点から具体的に説明することができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
FD2516	児童青年心理学	児童期は、狭義には学童期を指しますが、広義には人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの、青年期に至る前の発達時期のすべてを包みます。児童青年心理学は、児童期と青年期における発達の特徴、状態や行動の一般的傾向を把握するだけでなく、発達の過程やその要因、条件の分析やメカニズムを明らかにする発達心理学の一分野です。それらを解明するためには、家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学などの領域はもちろん、社会学、生物学、文化人類学など近接する諸科学の視点を持つことも必要になります。この科目では、児童と青年を心理学的に理解するため、基本となる理論を学んでいきます。	1) 児童期と隣接した発達時期の相違点を、領域別に説明できる。 2) 児童期を学校生活の低学年(1-2年生)、中学年(3-4年生)、高学年(5-6年生)に分け、それぞれの特徴を比較して説明できる。 3) 今日の子どもの社会との関わりの上での特徴や問題点、発達のつまずきや節目について説明できる。 4) 青年期と他の発達時期の相違点を、領域別に説明できる。 5) アイデンティティの形成プロセスを理解し、4つのステータスのそれぞれの特徴を比較説明できる。 6) 青年と社会との関わり的重要性及び問題点について、「問題行動」「キャリア形成」などの領域別に説明することができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FD2517	老年心理学	これまで老年期(高齢期)は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、人間関係、認知症の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。	1) 高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。 2) 高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。 3) 認知症に関する基礎的知識を得たうえで、心理を理解した支援の要点を述べることができる。 4) 高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べることができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FE2513	教育心理学	「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「ひとはなぜ忘れるのか?」という記憶や忘却のメカニズムをはじめ科学的に研究したからです。一方、その「心理学」の一分野である「教育心理学」では、同じ記憶や忘却を研究するのに、「どうしたら忘れなくなるか?」という発想をします。この発想の違いが、教育心理学とはどういう考え方をとする学問か、ということを考える際の手がかりになると思います。えっ、まだよくわからないって……。では、ズバリ言います。教育心理学的に考えると、「学ぶ人の味方になって考える」ことなのです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまずいたりすることもある、それはきっと彼ら彼女らなりの理由があるにちがいない、その「言い分」にじっくり耳を傾けて、その対策を考えてみようじゃないか、というわけです。ですから、子どもに何かをわかりやすく教えたいと思っている先生、いやなにも学校教育に限らず、人と楽しく教育的なかかわりを持ちたいと思っている人にとって、少しでも役に立つ知識や技術や考え方、そういうものを提供するのが教育心理学だと考えています(かなり私の希望が入っています)。本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方はほとんど書かれてありません。でも、「学ぶ人の味方になりたい!」と考えている人にとっては、大切な考え方や研究が数多く紹介されています。「ほほう、こういう考えや研究は学ぶ人に味方になっているな」などと読み進めていただければ、と思います。もちろん、ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考え方とつきあわせて読むということも大切なことです。教科書に書いてある心理学者の名前や考え方をただ記憶するだけでは、教育心理学って面白い!とは感じてもらえないと思うからです。	1) 人間の子どもが成長・発達していくことについて「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。 2) 「教育と発達の関係」について、2つの大きく異なる考え方を学び、どちらが「学ぶ人(子ども)の味方」になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。 3) 「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまずき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。 4) 学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FE3518	障害児の心理	「障害」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象や感想を持つのでしょうか。「心身障害児」とか「障害者」とよぶ以上、そこには何か意味があるはずですが。保育や教育の場面に例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということの意味していると思われれます。障害をもった子どもの保育・教育が的確に行われるためには、「障害」についてきちんと理解し、「障害をもつ人」の心理について基本的な認識を深める必要があります。ここでは、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもや大人がどのような心理状態に陥りやすいかということを学習します。	1) 「障害」の意味をさまざまな角度から考察し、特に、その社会的な意味について自分の考えを述べるることができる。 2) さまざまな種類の障害について理解し、学習前に抱いていた障害についての知識や考えとの異同を具体的に明らかにすることができる。 3) 特に、「(軽度)広汎性発達障害」についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ(育児・保育・教育)のあり方について具体的に考えることができる。 4) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。 5) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮(条件)が必要であるかについての考えを述べることができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FF2511	人格心理学	ある状況で人はその人なりの思考や行動をとります。しかも、別なときの同じような状況でもその人はその思考や行動をとりがちです。このように一貫性と持続性をもったその人特有の思考や行動の特徴的傾向の体系を「人格」といっています。「人格」と「性格」はほぼ同じ意味で用いられますが、区別するときは、「人格」は態度、興味、価値観などを含む心の全体的特徴を指し、「性格」は主として感情や意志の側面の特徴を指します。人格心理学では、①個人の全体性と独自性の記述と理解、②個人差の理解と予測、③自我・自己の理解、④人格の発達・形成過程の理解、⑤自己成長・人格変化の過程の解明と援助、⑥人格の障害・病理(葛藤と欲求不満、防衛機制を含む)、⑦人格と健康の関連、⑧人格と文化・性差の関連、⑨人格の理解の方法などについて学びます。このうち、⑥⑧については、補足資料を参照ください。なお、産業カウンセラーの受験資格取得をめざす人は、『産業カウンセリング』(産業カウンセラー養成講座テキスト)も参照ください。	類型論(タイプ論)的見方、特性論的見方、力動論的見方、ロジャーズの自己理論の特徴を説明でき、仕事の現場や日常生活の中で活用できるようになる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FF2519	心理アセスメント	悩みを抱えているクライアントに心理的援助を行おうとするとき、クライアントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライアントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライアントへの接近を試みることになります。そのとき大事なことは、クライアントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらを押さえた評価・査定を学習することになります。	1) 心理面における正常・異常の違いについて説明できる。 2) 心理アセスメントの3本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	人間は、生まれてから死ぬまでのライフサイクルにおいて、家族の変容に伴い様々な悩みや問題と遭遇していきます。問題の意味を自己成長というキーワードをもとに考えつつ、その対応をどうしていくのがよいかについて、福祉心理学の視点から掘り下げていきます。自分自身の生き様や家族のことを考えながら学んでいきたいと思います。	1) エリクソン心理社会的発達の8段階が正確に説明できる。 2) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題を、具体的に解説できる。 3) 家族関係の変化に対して起こる問題や課題に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
FF3503	臨床心理学	臨床心理学(clinical psychology)の「臨床」は、ギリシャ語の「寝台(クリネー)から生じた語といわれています。僧侶が、死を目前にして苦しむ者に手をさしのべ、魂の世話をしたことに臨床の起源があるのです。現代では、魂の世話(最近なことばでいえば心のケア)が必要なのは、死を目前にしている人たちだけではありません。だれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれず立ちつくすことがあるものです。そのようなときにその人が自分らしい道を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。心理学的な援助を提供するためには、まず相手について理解しようとするのが不可欠です。人をわかろうとするということは、自分の心を通じて行われるので、まず、自分をわかろうとすることが大前提になります。また、援助は、援助を提供する側からの一方通行では成り立ちません。援助を提供する側と援助を受ける側がお互いに参加する関係があって援助は成り立ちます。臨床心理学では、相互性や関係性についても学んでいきます。	1) 臨床心理学の目的と方法論について、説明することができる。 2) 自分の心の動きについて、臨床心理学の理論を用いて記述することができる。 3) 心理アセスメントの概要を把握し、心理臨床活動における位置づけを説明できる。 4) 臨床心理学的援助の枠組みについて説明できる。	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

FF3520	心理療法	心理療法は、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域ですが、急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。人間の心は、複雑に機能しつつもある程度のまとまりをもって機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといろいろな要因により心が十分に機能しなくなることがあります。心理療法とは、深刻な悩み、症状（身体症状も含めて）、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法も多種多様となります。そこでここでは、心理療法の基本的枠組みと各種心理療法の特徴等を学習することを目的とします。	1) 様々な心理療法をそれを創始した人物の名前、その背景となる理論と共に述べるができること。 2) 各心理療法についての特徴について述べるができること。 3) 各心理療法についての具体的なやり方について述べるができること。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
FF3521	心理療法各論	カウンセリングにおいて、理論とは、困難に直面した人を理解したいと思ったときに道しるべとなるものであり、技法とは、援助したいと思ったときに道具になってくれるものです。現在よく知られている理論だけでも相当数があり、それぞれ異なる人間観・治療観・技法を持っています。カウンセラーは、これら多くの理論・技法について、知っている必要があります。一つの理論では、到底理解・対応しきれないのが、生身の人間だからです。同時に、これら多くの理論・技法の中から、自分の臨床実践の骨格となる特定の理論を選び、深く学ぶことも大切です。この科目では、「臨床心理学」「心理療法」など他の科目ではくわしくとりあげられなかった「特性因子理論」、「認知行動療法」、「精神分析療法（交流分析、ゲシュタルト療法）」、「人間学的アプローチ」、「家族療法」、その他の療法を学んでいただくと思います（精神分析療法については、他の科目で詳しく取り上げられているので、省略し、交流分析とゲシュタルト療法についてのみ取り上げます）。多種多様な理論・技法の特徴を学びながら、自分のバックボーンとなる理論や使いこなせる技法を見つけていってください。	1) 心理療法の主要な諸理論（特性因子理論、認知行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、人間学的アプローチ、家族療法、その他の療法）について解説することができる。 2) 心理療法の主要な諸理論について具体例を記述することができる。 3) 産業カウンセラーとして、主要な諸理論と技法をどのように活用するかを述べるができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○
FG2682	カウンセリングⅠ	様々な援助活動があり、昨今「カウンセリング」という言葉自体が様々な使われ方をしている。心理学を基盤としたカウンセリングの専門的な理論と方法について学んでいく基礎として、カウンセリングの意味や特質などを学び、自分自身の人間観を理解することにより、援助者としての心構えを理論的理解から自分自身を振り返ることを目指してもらいたい。	1) カウンセリングの意味を理解し、カウンセラーとしての責任感を自覚し、説明できる。 2) カウンセリングと他の援助活動の差異を説明できる。 3) 来談者中心療法の理論を理解し、人間観を身につける。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FG2683	カウンセリングⅡ	カウンセリングは、カウンセラーとクライアントによるかわりあいのプロセスです。そしてカウンセリングの導入期から終結までの各段階には、ある程度共通する課題やかわり方があるとされています。この授業では、インテーク面接やアセスメントに始まり、面接の契約、目標の設定、そして終結に至るまでのプロセスを辿りながら、カウンセリングが実際どのように進められていくかをご紹介します。また各段階におけるカウンセリングの特徴や使用される代表的なカウンセリングの技法についても取り上げます。	1) カウンセリングの各段階の流れを説明できる。 2) 各段階におけるカウンセリングの特徴や注意点について述べるができる。 3) 各段階におけるカウンセリングの技法について理解し、基礎レベルでの習得をする。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FG3680	産業カウンセリングⅠ	産業カウンセラーは何故「産業」と付くのか。専門的援助活動として始まった産業カウンセラーの歴史を学び、現在のカウンセリング全般にどのように発展していったかを理解してほしい。そのうえで、自分が援助者として産業界でどのような形で活動できるかを考え、実行していくべき姿を明確にしていく。	1) 産業カウンセラーの3つの活動をイメージし、説明できる。 2) 職場のメンタルヘルスの概要を説明できる。 3) 産業カウンセラーとして自分が活動するイメージが具体的にできる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FG3681	産業カウンセリングⅡ	産業カウンセラーとして業務に携わる際には、面接記録を記入し、管理しなければならない。その知識と、産業カウンセラーとしての研鑽方法としての、逐語検討、事例検討を実践的に学ぶ。実際に業務に携わる際に産業カウンセラーとしての倫理を認識する。	1) 逐語記録や事例検討の意義を理解し、作成できる。 2) 事例検討を通じ、ニーズを把握し目標を立てられる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FG3685	カウンセリング演習Ⅰ	自分自身が人を援助する際にはどのような人間で、どのように人と接しているのか、自分の価値観や考え方に偏りはないか気づき素直に認める自分があるかを認識してほしい所です。そのうえでカウンセリングの基本とされる「傾聴」の姿勢と技術を実践的演習とグループワークにより体感し、表現できることができるよう練習を課します。	1) カウンセラーの基本的態度について体験的に理解を深め、相手に伝わる態度を修得する。 2) 傾聴基本的技法を体得し、適切に活用できる。 3) 自分の態度、聴き方の特徴についてロールプレイ、グループワーク等でフィードバックしながら、気づき、またそれを認めていくことができる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FG3686	カウンセリング演習Ⅱ	カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。1対1での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワークング、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践性に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。	1) カウンセリングの基本的な技法を使って、クライアントの感情を表す言葉を引き出せる。 2) 非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライアントとの信頼関係を築ける。 3) 自分の感情や価値観に縛られずに、クライアントの言葉を受けとめながら聴ける。 4) クライアント個人だけではなく、その人の暮らす環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FH3510	認知心理学	日常用語としての「認知」という言葉は、「認める」とか「知る」といった意味です。心理学では、それにくわえて推理・思考などの高次精神機能をへて「知る」ということ入ってきます。とにかく「認知」とは広い意味で「知る」ことだと思ってください。ですから、「認知心理学」は「どのようにして知るか」の学問と捉えていいでしょう。ただ、「認知心理学」には著しい特徴があります。それは、人は（動物も基本的に同じですが）その時々において、すでに枠組みを持っているのを認めることです。意識することは少ないのですが、私たちは自分の持っている枠組みで外の世界に注意向けます。ですから、その枠組みに関する情報は引っかかりやすく簡単に取り入れられるのです。それに対して枠組み・知識のない分野の情報は、取り込むのに大変苦労したりします。偏った考えを持った人が、そのアンテナに掛かる情報ばかり取り入れ、ますます偏ってしまうことにもなったりするわけです。旧来の条件づけ的な心理学ではこのような事態は説明できませんが、認知心理学では可能になります。さて、この講座では、広範囲にわたる認知心理学領域全体を浅くカバーするのではなく、学習、理解、学習指導、文章の理解といったことを中心に、この学問ならではのアプローチの面白さを実感していただこうと思います。そこで獲得した見方・考え方は、認知心理学の広範な他領域の学習や、日常的な場面への適用をも容易にしてくれるでしょう。	1) 認知心理学のタームを用いて知覚・文章理解・理解・情報探索などについて述べるができる。 2) 認知心理学的に教育や日常の問題を考えることができる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○
FH3512	学習心理学	心の科学である心理学は、近年めざましい発展を遂げ、研究領域も大きく広がってきています。心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶の研究という大きな二つの流れがありました。この二つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。	1) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。 2) 学習心理学の応用的な研究について内容を説明できる。	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○
FT2604	特講・福祉心理学4(スクール・カウンセリング)	文部省が平成7年度にスクールカウンセラー事業を開始して以来、公立中学校を中心に、現在スクール・カウンセリングは小学校や高等学校にも広がっています。学校というコミュニティに関わるには、個人心理療法的アプローチだけでは不十分であり、コミュニティ・アプローチが必要となります。学校全体のメンタルヘルスを考える視点、学校という組織にカウンセリングを根付かせる姿勢を持たなければなりません。この授業は、講師がスクールカウンセラーとして体験した実践や事例を紹介しながら、より具体的に理解できるような内容と思いたいと思います。	1) スクール・カウンセリング事業の歴史について説明できる。 2) スクール・カウンセリングにおけるコミュニティ・アプローチの理論および技法について解説できる。 3) 学校における諸問題について、スクールカウンセラーの観点から論じることができる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
FT2605	特講・福祉心理学5(自分さがしの心理学)	文部省が平成7年度にスクールカウンセラー事業を開始して以来、公立中学校を中心に、現在スクール・カウンセリングは小学校や高等学校にも広がっています。学校というコミュニティに関わるには、個人心理療法的アプローチだけでは不十分であり、コミュニティ・アプローチが必要となります。学校全体のメンタルヘルスを考える視点、学校という組織にカウンセリングを根付かせる姿勢を持たなければなりません。この授業は、講師がスクールカウンセラーとして体験した実践や事例を紹介しながら、より具体的に理解できるような内容と思いたいと思います。	1) 自分の性格や行動の長所と短所を、それぞれ最低でも10項目あげて説明できる。 2) 対人関係を築くうえで改善していく目標を、3つあげることができる。 3) 自分らしさを生かせる今後の人生のプランを、物語にして話すことができる。	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○
FT2608	特講・福祉心理学8(ストレスとつきあう心理学)	人間は少なからずストレスを抱えながら過ごしています。そのストレス社会を生き延びるのは簡単なことではありません。ストレスがたまって仕方がないという方。どうして自分だけがこんなにストレスを被りながら生きていけないのだろうかと思う方。どうせストレスなんかなくなると耐える覚悟を決めている方……。つらさが高じて、ひきこもり、燃え尽き(バーンアウト)症候群に陥ったりしてしまうのを防ぐために、この講義でヒントを得ていただきたいのです。福祉・医療・教育など、人間の心や身体をフォローする対人援助職に従事するだけでなく、日常生活のストレスに悩んでいる方にも、気づきと対処スキルを得ていただければと願っています。	1) ストレスを抱えやすい自分の性格や行動の特徴を説明できる。 2) 人間関係を築くうえで使えるコミュニケーション・スキルを、最低でも3つあげることができる。 3) ストレスフルな時の自分の身体の状態を知り、身体に働きかけてリラックスする方法を3つ以上持つ。	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○
FT2609	特講・福祉心理学9(コミュニティ心理学)	コミュニティ心理学は、1965年アメリカで誕生した、まだ新しい心理学と言えます。現代は、伝統的な個人心理療法だけでは解決できない多種多様な問題を抱えています。例えば、ひきこもりや虐待の問題は、相談室で待ち構えているだけでは、解決が非常に難しい問題です。コミュニティ心理学的アプローチでは、そのような心理・社会的な問題に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか？心理的・社会的な問題は、専門家だけでなく、コミュニティに共に生きる全ての人が、自ら考え、関わりを持っていくことで変化していきます。本講座を通して、そのような基本的な発想と姿勢を身に付けて頂ければと思います。	1) コミュニティ心理学の基礎知識について述べることができる。 2) コミュニティ心理学の発想をもった心理臨床家としての視点・基本姿勢について説明できる。 3) 様々な領域において、どのようなコミュニティ・アプローチがなされるか理解し、その上で、伝統的な個人心理療法との違いを説明できるようにする。	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○

